

■【トピックス】
GO TO トラブル！



旅行業界を救済するために政府は、GO TO トラベルを強力に推し進めています。一説には来年の東京オリンピックのために旅行社をつぶせないということもいわれています。しかし、その一方でコロナの第2波が列島を襲っています。

このような状況でお盆の帰省を自粛するように要請することには明らかに矛盾します。今は有事であるという認識であれば、自ずと優先順位は明らかだと思われま

■【ビジネス・アイ】
航空機リース！

- 社長 「ちょっと前にイギリスの航空会社が倒産したってニュースを見たけど、コロナによる影響は世界的に大きいね」
- 花野 「そうですね。特に航空業界はコロナ前までは拡大の一本やりでしたからね」
- 社長 「そうだよね。飛行機も余っちゃうよね」
- 花野 「それで影響が出そうなのが、航空機リースを利用した節税商品ですね」
- 社長 「金融機関がよく売り込みに来ていたオペレーティング・リースとかいうやつだね」
- 花野 「そうです。オペレーティング・リースは、まず匿名組合を作って航空機を購入して、購入した航空機を航空会社に貸し付け、最後にはリース期間完了後の航空機を売却するというスキームになっています」
- 社長 「航空会社がつぶれるとどうなるの？」
- 花野 「航空会社がつぶれると、まず受け取るはずのリース料が受け取れず、損失が発生します」
- 社長 「それはそうだよね」
- 花野 「それから途中解約になったために回収した航空機を中古市場で売却しようとする。しかし、現在の状況では買い手が見つからない可能性がありますので売却収入が、当初の想定を大きく下回る可能性が大きいですね」
- 社長 「節税のための商品で、大きな損失が発生する可能性が出てきたということだね」
- 花野 「そういうことになりますね」

■【今月のキーワード】
オペレーティング・リース

節税商品としてのオペレーティング・リースは、大型航空機、船舶、コンテナなどを対象にします。匿名組合を利用して出資者を募り、初年度に70%前後の償却率を目指し、償却期間は10年以内の商品が多いです。主なリスクとしては、大幅な為替変動による損害、リース先の企業が倒産することによる損害、リース期間終了後にリース資産が当初想定していた価格で売れないことによる損害などがあります。航空機リースについては、今まさにこれらのリスクが顕在化しつつあります。

■【今月の1冊】
『属人思考の心理学 組織風土改善の社会技術』
岡本浩一・鎌田晶子 著
新曜社 ¥2100

企業不正を防止するためのコンプライアンスが叫ばれて久しいです。企業では規程やマニュアルを整備しています。

しかし、いくら規程等を整備しても防げるのは個人的な不正です。大企業で後を絶たない組織的な不正は防げません。組織的な不正を防止するためには属人的な組織風土を改善する必要があります。改善すべきは組織風土です。



■【編集後記】

例年お盆休みには沖縄の石垣島にスキューバダイビングに行っていますが、今年は早々に諦めました。案の定、沖縄の離島でコロナが拡散しています。自分が感染者かもしれないと思い、医療体制が脆弱な離島等には行かないように自粛する時ですね。

『経営のセカンド・オピニオン』vol.162（毎月1日発行）

- 定価：2400円/年 ●発行日：2020.9.1 ●発行人：花野康成
- 編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア
- 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F
- TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808